

2017年10月11日

立教大学国際学術研究交流制度
2017年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	文学部・教授
	氏名	石川 巧
受入学部・研究科・研究所		文学部
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor, Global Institute for Japanese Studies, Korea University 協定の有無：全学 所在国：韓国
	氏名	Inkyung Um
招へい期間		2017年9月27日～2017年10月11日（15日間）
研究経費		291,680円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2017年9月27日	来日
2017年10月5日	文学部の「入門演習」（日本文学専修1年生対象・25名）において朝鮮日本語文学に関する講義と質疑応答
2017年10月8日	日本近代文学を専攻する大学院生のセミナー（9号館B1教室・参加者20名）で東アジアにおける日本語文学研究の動向について研究討議
2017年10月10日	大学院文学研究科の「大学院演習」（15名）において日本統治下の朝鮮で発行された詩歌雑誌に関する研究発表と討議
2017年10月11日	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

2週間という短い期間の滞在だったが、(1) 学部学生を対象とした朝鮮日本語文学に関する講義と質疑応答、(2) 研究会での報告（東アジアにおける日本語文学研究の現状に関する報告）、(3) 大学院生を対象とする日本統治下の朝鮮における詩歌雑誌と出版文化に関する講義と討論、を精力的に行っていただき、学部学生、大学院生ともに多大な刺激を受けることができた。

学部学生の場合は、朝鮮日本語文学（統治期に日本人が朝鮮半島で行った文学活動、および朝鮮人による日本語文学活動）という概念そのものが難解であり、日本語／朝鮮語による二重言語文学＝ハイブリッド文学を強いられた歴史的状況を理解するのに精一杯だったと思うが、多くの学生から質問の手が上がり、朝鮮半島において日本語が何をしたのか？ それがどのようなかたちで政治活用されたのか？ といった問題を考える契機になった。

日曜日に行ったセミナーでは、厳仁卿氏が中心に関わっている東アジア日本語文学フォーラムの活動などを紹介し、いま、中国、韓国、台湾などでどのような日本語文学研究が行われているのかが紹介された。大学院生にとっては極めて刺激的な内容であり、今後の研究活動に大きく貢献するものとする。

大学院演習での発表は日本統治下の朝鮮における詩歌雑誌をめぐる出版文化に関する講義であり、かなり専門的な内容を含んでいたが、当時の雑誌が残っていないこと、現段階で分かっていないことが数多くあることなどを知り、驚かされることばかりだった。講義終了後には大学院生とともに懇親会にお付き合いいただき、深夜まで文学談義を交わすことができた。大学院生のなかには親が韓国籍であったり、将来的に韓国への留学を考えている者もあり、厳先生に多くの具体的な質問が投げかけられた。

